

平成30年度府立北桑田高等学校美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。 2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。 3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。	【成果】 ・基礎基本の定着に重点を置いた授業展開ができた。 ・多様な生徒に対し、家庭との連携を密に図り、個々に対応した支援・指導に努めることができた。 ・学び直し学習の充実が図れた。 ・実践を重視した専門教育の充実が図れた。 【課題】 ・生徒個々に応じた学習支援の充実を図る。 ・日常的な学習指導の中でSSTの充実を図る。 ・美山分校の教育内容の広報活動の充実を図る。	1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。 2 農業科と家政科の連携した取り組みを積極的に推進する。 3 個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。 4 生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。 5 広報活動を積極的に行い、地域等外から見える学校づくりを進める。 6 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。 7 安心安全な学校づくりを進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	教職員の資質・能力の向上を図る	校内外での研修へ積極的に参加し、自己の課題を明確にし、教育力向上に努める	B	○▲小規模校であるため、様々な場面で情報共有が行いやすい。反面、共有している範囲が一部に留まり、全体として共有する場をしっかりと持つよう意識する必要がある。 ▲生徒対応等において、組織的な動きが十分であったとは言えない。	
		教育実践の成果と課題を、日常的に交流し、指導の充実につなげる	B		
		身近な物の整理整頓から安全確保の推進につなげる	B		
	組織的な指導体制の確立する	情報共有を積極的に行い、分掌間や担当者間、管理職等との日常的、継続的な連携を大切にする	B		
		全ての教育活動における組織的・計画的な実践の推進する	B		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程を編成する	学科に応じた特色ある教育課程の編成する	B	○基礎学力の定着を充実させる等、生徒の状況に応じた教育課程を立案、実行することができた。 ▲応用力の伸長を可能にするため、より充実した教育課程を考案する必要がある。	
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程の編成する	A		
		生徒の進路実現に向けた教育課程の編成する	B		
教科指導	各教科の目標実現のために、計画的な指導を行う	年間計画に基づいた計画的な指導する	B	○すべての教科に関してシラバスを作り、年度当初に生徒に示すことができた。 ○公開授業週間の取り組みをした。 ○成績不振者を対象にした補習を実施した。 ▲日常的に宿題を課す等、学習習慣の確立を可能にする具体的な取り組みが十分には行えなかった。	
		授業公開を通しての授業改善する	B		
	可能な限り、個々の生徒に応じた教科指導を行う	生徒の学力、理解の程度等を把握しての指導する	B		
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、学力の充実のための手立てを講じる	A		
		読みにくい漢字にふりがなを付けるなど、理解しやすい教材作成を工夫する	A		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する	B	○生徒会が中心となり、主体的に行事の運営や活動を行うことができた。 ▲文化祭の1日目の内容については、今後検討する必要がある。	
		学年団で連携を密にしホームルーム経営の改善・工夫に努める	B		
		各学年ごとの適切なホームルーム内容になるよう努力する	A		
	創意工夫した学校行事に取り組む	文化祭の成功のため生徒会を中心に全校を挙げた取り組みを行う	B		
		様々な学校行事の主役は生徒であるとの認識を基本に指導する	B		
		自主的な生徒会活動を目指す	A	生徒会活動を通して自主的に何事にも取り組む力を付けさせる	A
進路指導部	「働きながら学ぶ」を具現化するよう指導する	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を継続する	B	○就労率は高くないが、就労者の労働意識は高く就労先からの大きなトラブルは聞かなかった。 ▲面談による希望を聞いたただけだったが、支援を要する生徒では細かく取り組めた。 ○時間はかかったが、粘り強く取り組めた。	
		就労先との連携を密にする	A		
	能力と適性を把握して、進路実現を目指す意欲を育む	3年次より希望進路の把握と指導を強化し、個々の指導を充実する	A		
		支援を要する生徒の進路指導を、支援機関と連携し、保護者とともに進める	A		
		口丹及び周辺地域の求人の開拓・確保に努める	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	問題事象の発生を未然に防いだり、早期に発見ができる体制を構築する	アンケートの実施や日常的な目配りを心がけ、生徒の状況把握に努める	B	○アンケートや見回り・面談等により、問題事象を早期に状況把握し、対応することができた。また、育友会の協力により団体鑑賞を実施できた。 ▲身だしなみについては、おおむね良好であったが、一部に指導が必要な生徒がいた。
		効果的な各分掌との連携を進め、問題事象の予防や早期発見に努める	B	
		地域や関係機関とも連携しながら、問題事象に適切に対処するよう努める	B	
	信頼、思いやりにも基づく人間関係の育成に努める	相手を思いやる気持ちを育て、信頼に基づく人間関係を築くように指導する	B	
		いじめなど、他人を傷つける言動は絶対に許さないとの強い指導を行う	B	
		あいさつの励行、適切な言葉づかいや身だしなみを指導する	B	
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する	困難な条件を持つ生徒の社会的目立にむけた支援のための学習を計画的、組織的に実施する	B	
		全ての生徒に入権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う	B	
		人権教育の科学的認識を系統的に育てるため教科学習の指導を充実する	B	
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みをする	B	
研究・研修	授業研究等を推進し、教科指導・生徒指導の資質向上を図る	職員研修を複数回実施し、教職員の様々な分野での技量向上を図る	A	○校内での職員研修を計画通りに実施することができた。 ○教職員の資質向上のため、定通研に参加した。 ▲外部の公開授業、各種研修会への参加が十分にできなかった。
		定通研の成功に尽力し、教職員の資質向上に貢献する	B	
		外部での公開授業、各種研修会へ、積極的に参加する	B	
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める課題を持つ生徒の支援を図る	生徒一人一人に時間をかけ丁寧に対応する中で、自分の言葉で自分の生活やからだに語りかける力をつける	B	○病氣から引き起こされる情緒不安、日々の身体不調の生徒に丁寧に対応することができた。 ○たんば地域支援センターとの連携により、事例研究や研修等を行い、生徒理解や生徒支援につなげることができた。
		生徒の特性を理解し、適切な支援が出来るように関係機関及び保護者と連携を大切に	B	
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する	A	▲気がついたことに随時対応したが、より良い環境作りには工夫できる箇所はあると思われる。 ▲防災教育や避難訓練等が十分に行えなかった。
		防災教育等防災教育を計画的に進める	B	
		教育環境の改善と安全管理の徹底を図る	B	
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、生きる力を身に付ける	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する	A	○台風被害も小さく押さえることができ、年間を通して計画通りに授業展開ができた。 ○農業技術検定合格など今まで取得していなかった資格を取ることができた。 ○今年も指導を重ねて学科発表にたどり着くことができた。 ○カラー野菜という新しい連携が生まれた。
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーションの力を付ける	B	
		学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする	B	
	地域との連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育てる	A		
家政科	家庭生活に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	学習効果に結びつく適切な学習教材を工夫する	B	
		実践的・体験的な学習の機会を設定する	A	
		生徒個々の実態に応じた適切な補習等の実習を行う	B	
	学習内容を深め、地域の暮らしを見つめ、考え、向上させる意欲を育てる	A		
第1学年部	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	地域の施設や保育所等での体験実習の実施や専門家から直接指導を受ける機会を設定する	A	
		4年間の集大成としてこれまで身につけた知識や専門性を活かした課題研究に取り組む	A	
		学習環境を整え、授業に集中できる場づくりをする	A	
		何事にも自分の責任で行動をするという意識を持たせる	B	
		他人を思いやる気持ちをはぐむ学級づくりをする	B	○年間を通してホームルーム教室の整理整頓に努め学習環境を整えることができた。 ▲他人の気持ちを考え、優しく人と接し行動することにおいて課題が残った。 ○与えられた仕事に対し責任を持って果たせることができた。
		HR活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第2学年部	目標に向かって、見通しを持って行動できる力を伸ばす 周りの人とのかかわりを大切に、協力し合うことを通して、互いに高められるようにする	与えられたことをこなすだけでなく、自ら学ぶ態度を育てる	B	B B ○生徒会幹部に立候補するなど、積極的に学校全体の活動に参加し、協力しながら動く姿が見られた。 ▲嫌なこと苦手なことに対しては、消極的になりがちである。少しずつ学習を重ね、自信を持たせる必要がある。
		自分のことだけでなく、他人を思いやる気持ちを育み、協力して物事に取り組む	B	
		H R活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する	A	
		自分の目標を設定し、見通しを持って行動できるように指導する	B	
第3学年部	上級生としての自覚を持たせるとともに、個々の能力を伸ばさせるよう特別活動の充実をはかる	何事にも自分の責任で行動をするという意識を持ち他人を思いやる気持ちをはぐくみ、全員で協力できる学級づくりをする	A	B B ○3年間かけて培われたクラスの友好的な人間関係が生徒それぞれにより影響を与え合えた。 ▲その中でも、まだまだ自発的に何かを積極的に起こすことなどの弱さがある。次年時、進路決定に向けて自己肯定感を育むことを大切に、力を伸ばせる集団づくりが必須。
		H R活動・学校行事に積極的に取り組ませるよう工夫する	B	
	次年度に向け進路実現を見据えた行動ができるように準備をさせる	個々の能力に応じた進路の方向性を考えさせ、進路選択につなげる	B	B
第4学年部	様々な活動や体験を通して、よりよい人格の形成を促すとともに、各自の希望進路の実現を目指す	自分を知り能力に応じた、納得できる希望進路を実現する	A	B B B ○上級生としての自覚を持たせることができた。○家庭との連携を密にとり、全員の進路を決めることが出来た。卒業後も進路の定着に向けて家庭や関係機関と連絡等を継続的にとる必要がある。
		他人を思いやる気持ちを育み、社会人となって人間関係を築けることを目指す	B	
		最高学年として、行事などでは後輩をリードし学校全体を見る意識を持つ	B	
国語科□	生徒の実態に応じた指導によって、基礎学力の向上を図る	個々の生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする	B	B B B ○生徒の授業への興味を持たせ、学力向上のための工夫をした。 ○授業参加を積極的なものにするため質疑応答の方法等を活発化する工夫をした。
		話す・聞く・書く・読む学習をバランスよく行う	C	
		学習に遅れが生じる生徒には、年間を通して補充指導を行う	B	
数学科□	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す	授業毎に教科書で必要とされる計算を練習してから授業に入るようにする	B	B B B B ○生徒が高校数学を理解し易いように、内容をかみ砕き予備知識を補強した上で授業に入るように工夫した。○理解不十分な生徒に対しては個々の弱点等を把握しながら、効果的に指導をするように心掛けた。その結果、欠点を取る生徒は出なかった。
		1年次は中学との接続に配慮した授業を行う	B	
		演習や作業の時間を多く取り、受け身にならぬよう配慮する	B	
		学習に遅れを生じる生徒には、補充指導を行う	B	
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能を高め、健全な心身の発達を目指す	レポート作成を課題とし運動に対する知識理解を深めさせる	A	B B B C ○運動することの楽しみを実践し、常に安全に配慮しながら実技を行うことができた。 ○レポートを丁寧に記入させ、理解を深め、自己の課題解決にむけ努力することができた ▲保健の授業において、課題研究を課し発表する段階において、綿密な計画立案させることに課題が残った。
		運動を通じて公正、協力、責任などの態度を育てる	A	
		教科保健を通じ健康で安全な生活を送るための基盤を培う	B	
		教科保健を通じて環境問題・健康問題を解決できる教養を身に付ける	C	
英語科□	中学校での学習の復習も行いつつ、実践的な英語力の伸長、及び外国の文化に対する教養を高める	英語指導助手と連携しながら、実践的英語力を伸長し、外国文化の理解を深める	A	B B B C ○英語指導助手とのチームティーチングにより、文化比較の観点での授業を行い、生徒の外国の文化に関する理解を深めることができた。 ○進路希望実現のために英語力を伸長させる必要のある生徒の指導を個別に実施することができた。 ▲授業内で、応用力の伸長を可能にする活動を十分にすることができなかった。 ▲スピーキングの指導の充実が課題である。
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる	B	
		個々の生徒の進路希望実現のため、個別指導を実施する	A	
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る	C	
文書・情報管理	文書・情報を適切に管理する	個人情報等を適切に保管・管理する体制を整える	B	B B B ▲学校から発信する文書の取り扱いについて、回議を行うなどの基本的なことの周知により努めたい。
		文書は適切に作成、起案、及び回議する	B	
		文書の保管管理を適正化する	B	
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関等との連携、協力を進める	家庭訪問等により、家庭との丁寧な連携に努める	B	B B B ○担任、養護教諭を中心に、家庭と細やかな連携に大部分は努められた。 ▲担任を中心に何も課題がない時の連携を、より細やかに行うことも必要であると感じる。
		地域の方々や関係諸機関等と連携し、地域に貢献する活動を教育活動に取り入れる	B	
		育友会事業などをはじめとする社会教育を支援する	A	
学校関係者評価委員会による評価	美山にある学校が地域の中で魅力を発揮できるように情報発信を含め、地域との連携を深めるべきである。学校の取組が美山町内に限らず、見えるような広報はできないだろうか。体育館や農業施設等、生徒にとって使いやすく、充実した環境を整えてほしい。			
次年度に向けた善の方向性	生徒にとって、より充実した教育環境の整備に力を入れたい。学習面では基礎的な力の定着と伸長を目指し授業改善に努める。働きながら学ぶという目標のもと、就労体験を通して社会とつながる力の育成機会を模索する。ソーシャルスキルトレーニングを教育活動に効果的に取り入れる。			